

2024年11月吉日

## 第42回比較文明学会大会のご案内

第42回比較文明学会大会実行委員会

平素より学会活動にご協力を賜り感謝申し上げます。来たる12月21日(土)、22日(日)に、明治大学和泉キャンパスで第42回比較文明学会大会が開催されます。大会詳細、プログラムは次ページ以下をご覧ください。

なお、ご参加にあたりましては、事前申し込みおよび参加費・懇親会費の事前振込みにご協力下さい。事前申し込みは、以下の申込みフォーム(Google Forms)から必要情報をご登録下さい。特に、懇親会ご参加予定の方は、手配の都合上必ず12月12日(木)までにご登録下さいますようお願い申し上げます。

申込みフォーム：<https://forms.gle/moCuFVxDkKGdBd3p7>  
(右記QRコードからもアクセスできます)



参加費は、

一般会員・賛助会員：3000円

学生会員：500円

非会員：500円

懇親会費は、

一般会員・賛助会員・非会員：6000円

学生会員：3000円

となっております。参加費と懇親会費は、合計額を以下の口座にお振り込みください。振込手数料はご自身でご負担をお願いいたします。当日受付でお支払い頂くことも可能ですが、事前のお振込みにご協力をお願い申し上げます。

振込先：ゆうちょ銀行 店名：一三八(イチサンハチ) 店番：138

普通預金 口座番号：0526560

名義：ヒカクブンメイガツカイトイカイジッコウイインカイ

郵便局の払込取扱票(青)の場合

口座記号：11380 口座番号：05265601

加入者名：ヒカクブンメイガツカイトイカイジッコウイインカイ

ご不明点等は大会実行委員会(jscsc42nd@gmail.com)までご連絡下さい。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 第 42 回比較文明学会大会概要

会場：明治大学和泉キャンパス

日程：2024 年 12 月 21 日(土)～22 日(日)

主催：比較文明学会

後援：明治大学史資料センター

### 大会テーマ：「留学の比較文明学」

グローバル、グローバリズムという言葉がこれほど取り沙汰されているにもかかわらず、一つのグローブの表面で不信と分断と対立が煽られ暴力の連鎖を招いているのは、現代文明の大きな矛盾である。「危機に挑戦する比較文明学」を担う本学会は、その設立趣意書で、「現代の世界と諸文明の在り方を問い、現代文明の中で苦闘する人びとと共闘する」（松本亮三「あとがき」『人類と文明のゆくえ——危機に挑戦する比較文明学』東海教育研究所、2023 年、500 頁）ことを提唱している。本学会の服部英二氏は現代世界の絶え間ない紛争のもとに「他文化に対する無知とそれによる倨傲」（服部英二・鶴見和子『「対話」の文化』藤原書店、2006 年、206 頁）があることを指摘している。いま必要なのはやはり「文明間の対話」（服部英二）である。

服部と鶴見が対話の中で言及しているように、文明間の対話の基盤となるのが言語である。言語を学び言語を通じて異文明を理解することで文明間の対話が可能となる。言語を学び異文明における精華と成果を学ぶこと、この目的に特化した主体的行為が留学にほかならない。文明の交流と対話を促進する営みの一つが留学なのである。

日本を例にとると、7 世紀以来留学生を送り出すと同時に、20 世紀に入る頃からは留学生を受け入れていた。古代以来中国語を学び中国文明あるいは中国を通じて世界の文明の精華を取り入れ、近世・近代に至っては西洋語と西洋文明を学んだ。この歴史に加え、近代以降は主にアジアからの留学生を受け入れた。20 世紀前半には、負の側面も大きかったが、日本語教育と日本を通じた近代文明の成果の伝播が行われるようになった。

しかし今、先進文明を学ぶためという古代以来の留学の意義は薄れているのではないか。「留学という行為が、文化の低い方から高い方へという一方的なものではなく、互いに異質な文化を知り合うという水平的、相互的なものとなるような時代」（上垣外憲一『日本留学と革命運動』東京大学出版会、1982 年、218 頁）が到来しているのではないか。

そこで本年度比較文明学会大会のテーマを「留学の比較文明学」とし、人類社会で行われてきた留学という営みの意味を問い直し、現代における留学の意義を問いたい。

## 第 42 回比較文明学会大会プログラム

### 【大会 1 日目 2024 年 12 月 21 日（土）】

- 10:00～12:00 役員会（リエゾン棟 L1 教室）
- 12:00～12:45 編集委員会（和泉研究棟 第 1 共同研究室）
- 12:30～ 受付開始 **※参加費は事前振り込みを基本とします**  
大会参加費：会員 3,000 円、学生会員・非会員 500 円
- 13:00～14:30 **基調講演（和泉図書館ホール）：「琉球と中国の教育文化交流—琉球の留学生を中心に」**  
講演者：瀬戸口律子（大東文化大学名誉教授）
- 14:40～16:30 **シンポジウム（和泉図書館ホール）：「東アジアにおける近代法学・関連諸科学のネットワークと人材育成」**  
パネリスト：  
阿部裕樹（明治大学職員大学史資料センター担当）  
三田剛史（明治大学商学部教授）  
高田幸男（明治大学文学部教授）  
村上一博（明治大学法学部教授）  
土屋光芳（明治大学名誉教授）
- 16:45～17:45 **総会（和泉図書館ホール）**
- 18:00～20:00 **懇親会（和泉の杜 3 階ホール）**  
参加費：会員 6000 円、学生会員 3000 円

### 【大会 2 日目 2024 年 12 月 22 日（日）】（会場は全てメディア棟）

- 9:00～ 受付開始
- 9:30～16:00 **個人・グループ研究発表**  
英語部会（M304 教室 9:30～11:00）  
共通論題報告（M305 教室 9:30～12:00）  
部会 1 グループ発表（M401 教室 13:00～15:00）  
部会 2 個人発表（M402 教室 13:00～14:30）  
部会 3 個人発表（M403 教室 13:00～14:30）  
部会 4 個人発表（M402 教室 14:30～16:00）  
部会 5 個人発表（M403 教室 14:30～15:30）

12月22日（日）個人・グループ研究発表時間割

午前の部

<b>英語部会（グループ発表） M302 教室 9:30～11:00</b>	
加藤久典・李里花（中央大学総合政策学部）	Minority and Modern Society
<b>共通論題報告 座長：三田剛史 M303 教室 9:30～12:10</b>	
筒井正二郎（西日本新聞 TNC 文化サークル）	明治期の医学留学生と「脚気論争」について
アブドゥラシィティ・アブドゥラティフ（モラロジー道德教育財団）	ウイグル人の来日留学史に関する考察
安達未菜（東海大学文明研究所）	1870年以降のプロヴァンスとカタルーニャの地域主義者間の交流
ハンガルダ・プリヤヒタ（国士舘大学大学院政治学研究科）	留学と国際文化交流
阿毛香絵（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科）	知識と信望の留学誌—近現代セネガルの移動し学ぶムスリム知識人の軌跡から—

午後の部

<b>部会1 グループ発表 M403 教室 13:00～15:00</b>	
平野葉一・中村朋子・服部泰・渡辺青（東海大学文明研究所）	下村寅太郎のブルクハルト解釈と学問論—文明論における人文知の一つの系譜として—
<b>部会2 座長：梅原宏司 M404 教室 13:00～14:30</b>	
松田康男（本学会会員）	文化多様性・文化間対話の重要性と芸術形式比較論の提唱
林正博（東京都市大学理工学部）	アメリカにおける内戦発生の可能性について
汪義翔（東京理科大学教養教育研究院）	東アジア先史時代における玉器文化の伝播と交流ネットワークの考察
<b>部会3 座長：濱田陽 M405 教室 13:00～14:30</b>	
佐野仁美（慶應義塾大学サイバー文明研究センター）	比較文明から見た World Wide Web 人類に一つの情報空間の構造化
岩松文代（北九州市立大学文学部）	日本の竹籠の用と美の変遷と西洋の愛好—東西交流が変容させる価値—
宮嶋俊一（北海道大学大学院文学研究院）	文明史的比較宗教論の可能性—梅棹忠夫と対話する—

<b>部会4 座長：加藤久典 M404 教室 14:30~16:00</b>	
河東哲夫（元外務省）	西欧『近代』の価値観は一時的な者として消滅するの？
犬塚潤一郎（実践女子大学）	資本主義の発展と個人の自由：生産手段の変遷と LLM-AI がもたらす新たな課題
原田憲一（(株)シードバンク）	比較文明研究の視点—風土論から資源論への転換

<b>部会5 座長：島田竜登 M405 教室 14:30~15:30</b>	
小林雅博（立教大学、神奈川工科大学）	人新世時代における歴史哲学
新美貴英（安田女子大学）	長谷川如是閑の大隈重信論

## 会場案内・昼食について

### 1. 明治大学和泉キャンパスへのアクセス—下左図（明治大学 HP より）参照—

最寄り駅は京王線・京王井の頭線**明大前駅**です。遠方からお越しの方は、まず新宿駅、渋谷駅、吉祥寺駅のいずれかにお越し下さい。これら3駅からの乗換は以下の通りです。

- ・新宿駅から：京王線特急・急行・快速で2駅目（約7分）、各駅停車で3駅目（約10分）
- ・都営新宿線新宿駅から：新宿→笹塚→明大前  
（笹塚止まりの電車は笹塚駅で京王線高尾方面行きにお乗り換え下さい、約10～12分）
- ・渋谷駅から：京王井の頭線急行で2駅目（約7分）、各駅停車で7駅目（約12分）
- ・吉祥寺駅から：京王井の頭線急行で3駅目（約13分）、各駅停車で9駅目（約17分）



### 2. 会場—上右図（明治大学 HP より）参照—

- 1日目：役員会はリエゾン棟、基調講演から総会は図書館ホール  
懇親会は和泉の杜3階
- 2日目：メディア棟3、4階教室

### 3. 昼食について

各自でご用意下さい。明大前駅から明治大学和泉キャンパス正門までは、途中で甲州街道を歩道橋（エレベーターあり）で渡って徒歩約4分です。駅と歩道橋の間に、スターバックス、ドトールコーヒー、なか卯、マクドナルド、ファミリーマート、京王ストア（食品スーパー）などがあります。なお、12月21・22日両日とも明治大学の学内食堂は営業していません。

※本大会の会場は明治大学和泉キャンパスで最寄り駅は明大前です。御茶ノ水駅最寄りの駿河台キャンパスではありませんのでご注意ください。